

# 多層言語環境に生きる

## 英語話者とのコミュニケーション

三ツ木 真実（北海道文教大学）

科研：基盤研究（B）（一般）  
「東アジア圏の複言語主義共同体の構築—多言語社会香港からの示唆」  
（課題番号15H03221）（平成27年度～平成29年度）  
第9回例会：研究最終報告会・情報交換会（平成30年3月10日）

# 発表の構成

1. 研究背景・目的
2. 研究方法
3. 分析結果
4. 考察
5. まとめ

# 研究背景・目的

## ■香港プロジェクト【HKP48】ホームページより

「地球規模で物・人・情報がグローバル化していく途上にあるのは間違いないことで、非日本語話者との接触は今後確実に増えていくでしょう。しかし、日本で日本人が非日本語話者と英語で意思伝達する場合、実際には**英語母語話者以外の英語話者である確率が高い**し、使われる英語も多様を極めています。

非日本語言語コミュニティの拡大が日本のグローバル化を示す一つの現象であるとするれば、そうした言語コミュニティが日本国内に出現・拡大しつつあることは疑いないことです。たとえば、日常的に海外支社とネット上で社内会議を行う人達があります。会議は、たとえば、インド、中国、インドネシア、スコットランド、韓国などの国々と結ばれます。**母語話者、第二言語話者、外国語話者が入り乱れて、彼らの多様な英語を理解する必要性が生じています。」**

# 研究背景・目的

## ■多層言語環境に生きる英語母語話者以外の英語話者とのコミュニケーションに向けて

- 現時点の日本国内 & 大学の授業という枠組みの中で**どのように実現？**
- 実現したら学習者は**どのような反応？**

# 研究背景・目的 – どのように実現？

## ■ICTとアウトソースを活用した多層言語環境の設定

- 大学のスピーキング授業
- オンライン英会話
- スカイプを通じた英語によるコミュニケーション
- フィリピン人講師との会話
- 1回25分×10

# 研究背景・目的 – どのような反応？

## ■研究の目的

### 前提：

「多層言語」のリアルなイメージを得にくい環境、EFLを越えにくい環境

### 目的：

多層言語環境に生きるフィリピン人講師とのスカイプを通じたコミュニケーションを日本人英語学習者がどう評価するのかを調査し、来たる多層言語社会に向けて英語教育の現場で行う実践に対する示唆を得る。

# 研究方法

## ■授業の内容

「スピーキングI」の授業スケジュール

| 週  | トピック            | 授業内活動           | 課題        |
|----|-----------------|-----------------|-----------|
| 1  | イントロダクション       |                 |           |
| 2  | 自己紹介            | トピックの紹介         | 単語テストの準備  |
| 3  | 自己紹介            | クラス内ディスカッション    | スカイプセッション |
| 4  | 自己紹介            | クラス内ディスカッション    | ライティング課題  |
| 5  | 食べ物             | トピックの紹介         | 単語テストの準備  |
| 6  | 食べ物             | クラス内ディスカッション    | スカイプセッション |
| 7  | 食べ物             | クラス内ディスカッション    | ライティング課題  |
| 8  | 音楽              | トピックの紹介         | 単語テストの準備  |
| 9  | 音楽              | クラス内ディスカッション    | スカイプセッション |
| 10 | 音楽              | クラス内ディスカッション    | ライティング課題  |
| 11 | 自由時間            | トピックの紹介         | 単語テストの準備  |
| 12 | 自由時間            | クラス内ディスカッション    | スカイプセッション |
| 13 | 自由時間            | クラス内ディスカッション    | ライティング課題  |
| 14 | インタビューテスト       | インタビューテスト       | スカイプセッション |
| 15 | ライティング/リスニングテスト | ライティング/リスニングテスト | 試験の準備     |

# 研究方法

## ■授業の内容

### 1つのトピックにおける取組みの流れ

| フェーズ | 取組み          | 学習内容  |
|------|--------------|---|
| 1    | トピック紹介       | 単語・会話表現の学習と練習<br>リスニング・トレーニング<br>コミュニケーション・ストラテジー<br>発言内容と質問の考案 |
| 2    | スカイプセッション    | 25分のスカイプ英会話（1～2回）   |
| 3    | クラス内ディスカッション | スカイプセッションで学んだ内容の共有  |
| 4    | ライティング課題     | まとめの英文エッセイ提出  |



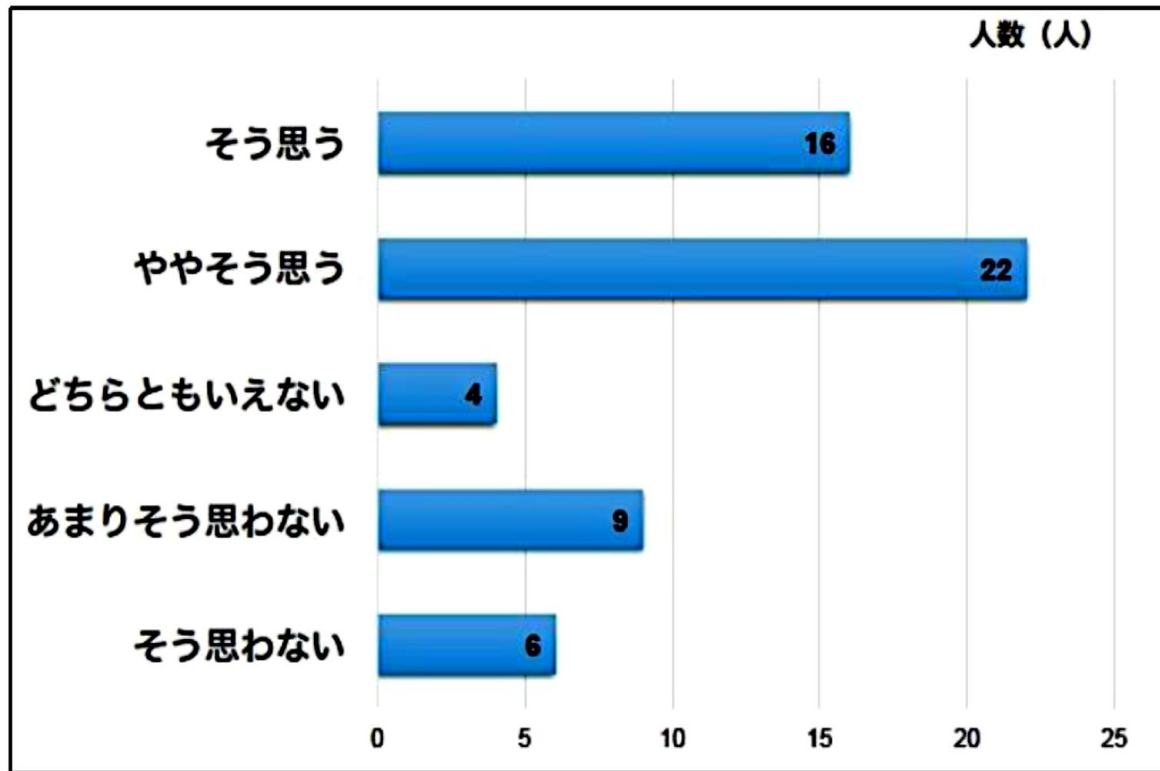
# 研究方法

## ■データ収集と分析

- ・大学生英語学習者 57名
- ・5件法アンケートと回答理由の自由記述アンケート
- ・問い：「Skype teacherとのオンライン英会話は・・・」
  1. 難しかったですか？
  2. 自分にとって意味があったと思いますか？
  3. 英語の学習として役立ちましたか？
  4. 教員との対面授業や文法の学習だけでは得られない  
学びがありましたか？（※質問項目は杉江・三ツ木（2015）を参考に作成）
- ・データ分析：KHCoderを利用したテキストマイニング

# 分析結果

## ■問1 「オンライン英会話の難しさ」



肯定（難しい）：67%

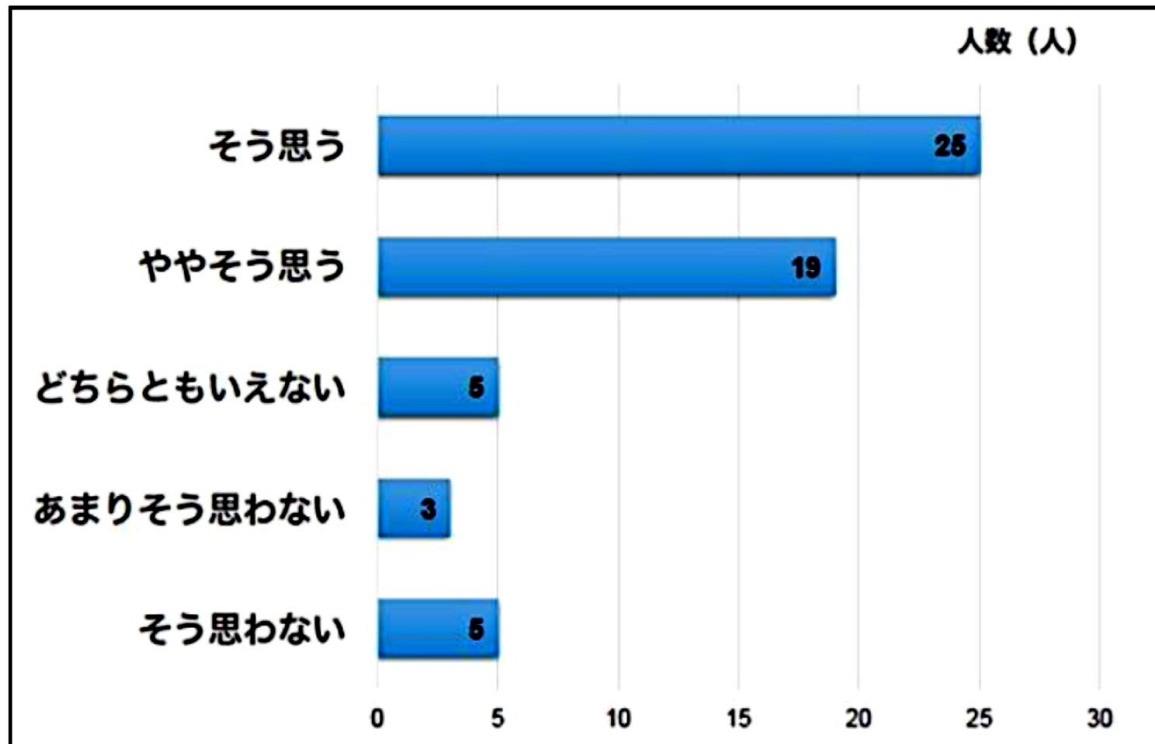
中立：7%

否定（難しくくない）：26%

多少難易度高め・・・

# 分析結果

## ■問2 「オンライン英会話の意味」



肯定：77%

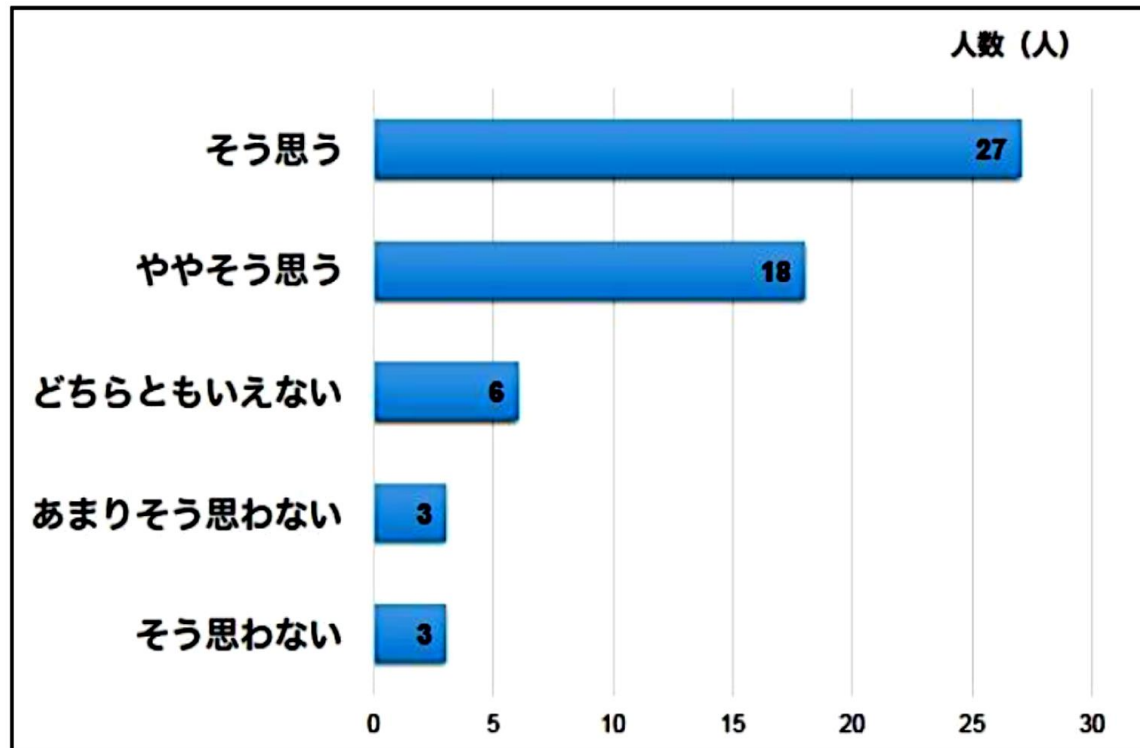
中立：9%

否定：14%

自分にとって  
何らかの有意味な取組  
みにはなりそう・・・

# 分析結果

## ■問3 「英語学習としての役立ち」



肯定：79%

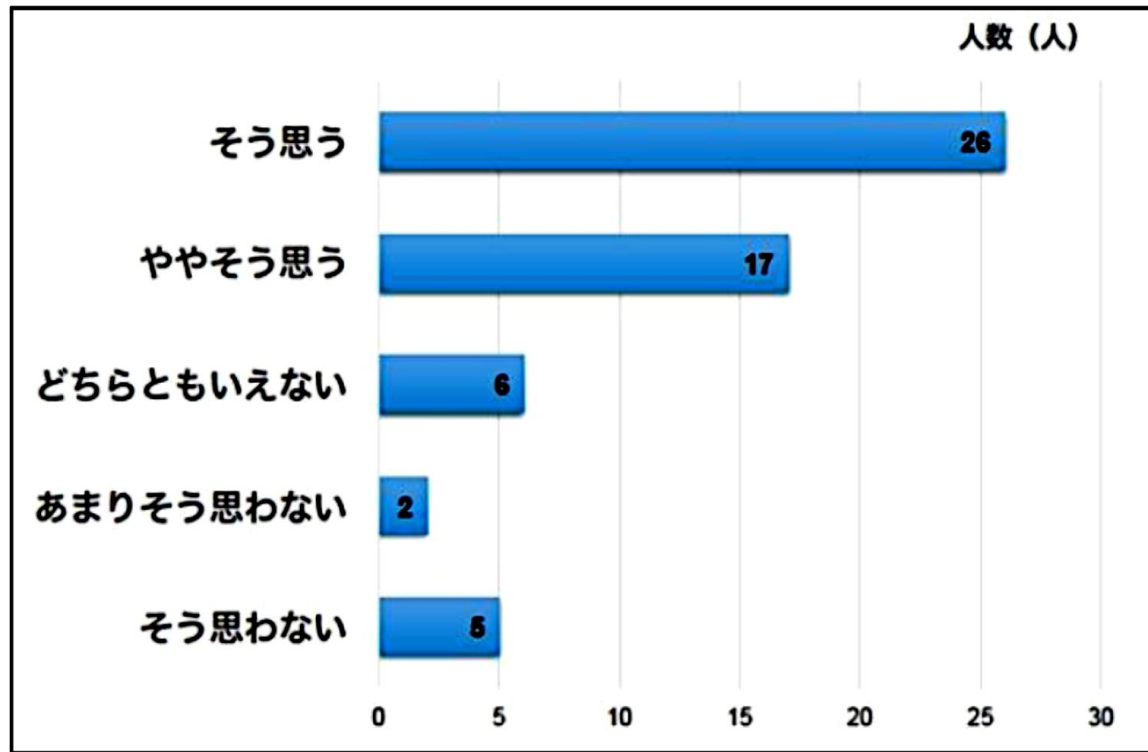
中立：11%

否定：11%

自分の英語学習には  
役立ちそう・・・

# 分析結果

## ■問4 「ならではの学び」



肯定：75%

中立：11%

否定：12%

多層言語環境を想定した  
コミュニケーション  
だからこそ得られること  
がありそう・・・

# 分析結果

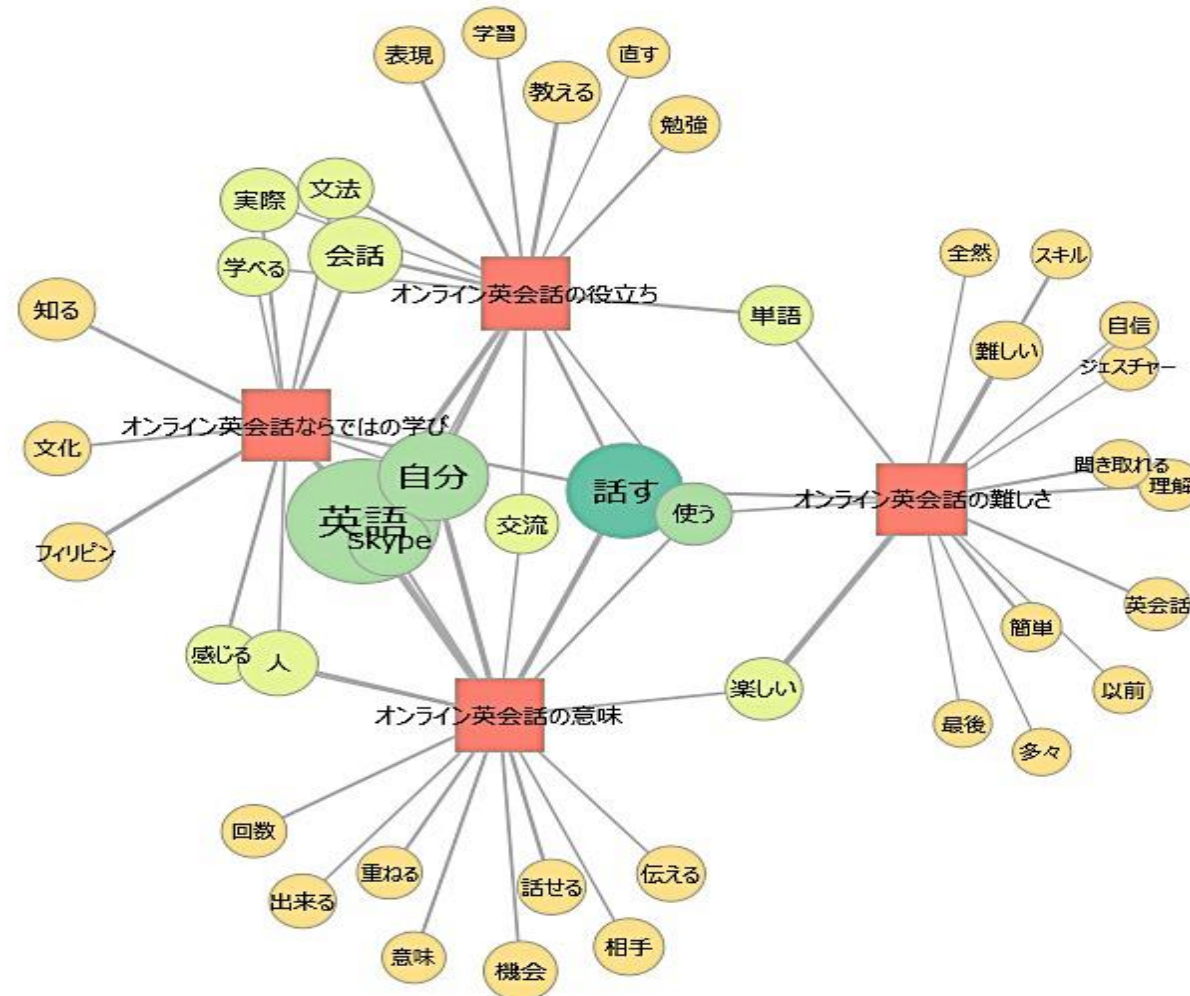
## ■ 5 件法アンケートの超簡潔なまとめ

- ・ 全体傾向としての学習者の認識

「多少の難しさは感じるが、意味のある取組みで、自らの英語学習にも役立つと認識している。また、多層言語環境に生きる英語話者とのコミュニケーションだからこそ得られるものがあるという認識をしている。」

# 分析結果

## ■自由記述アンケートの分析結果：肯定的評価



# 分析結果

## ■自由記述アンケートの分析結果：肯定的評価

### \* 難しさ (= 難しくない)

- 楽しさ → 困難さの低減

- やり遂げる、聞き取れる、相手の理解 → 気付き + 自信

### \* 活動の意味

- オーセンティックな対人による英語交流の機会 + 継続性

### \* 英語学習としての役立ち

- 実践的な言語知識の学びと使用 + フィードバック

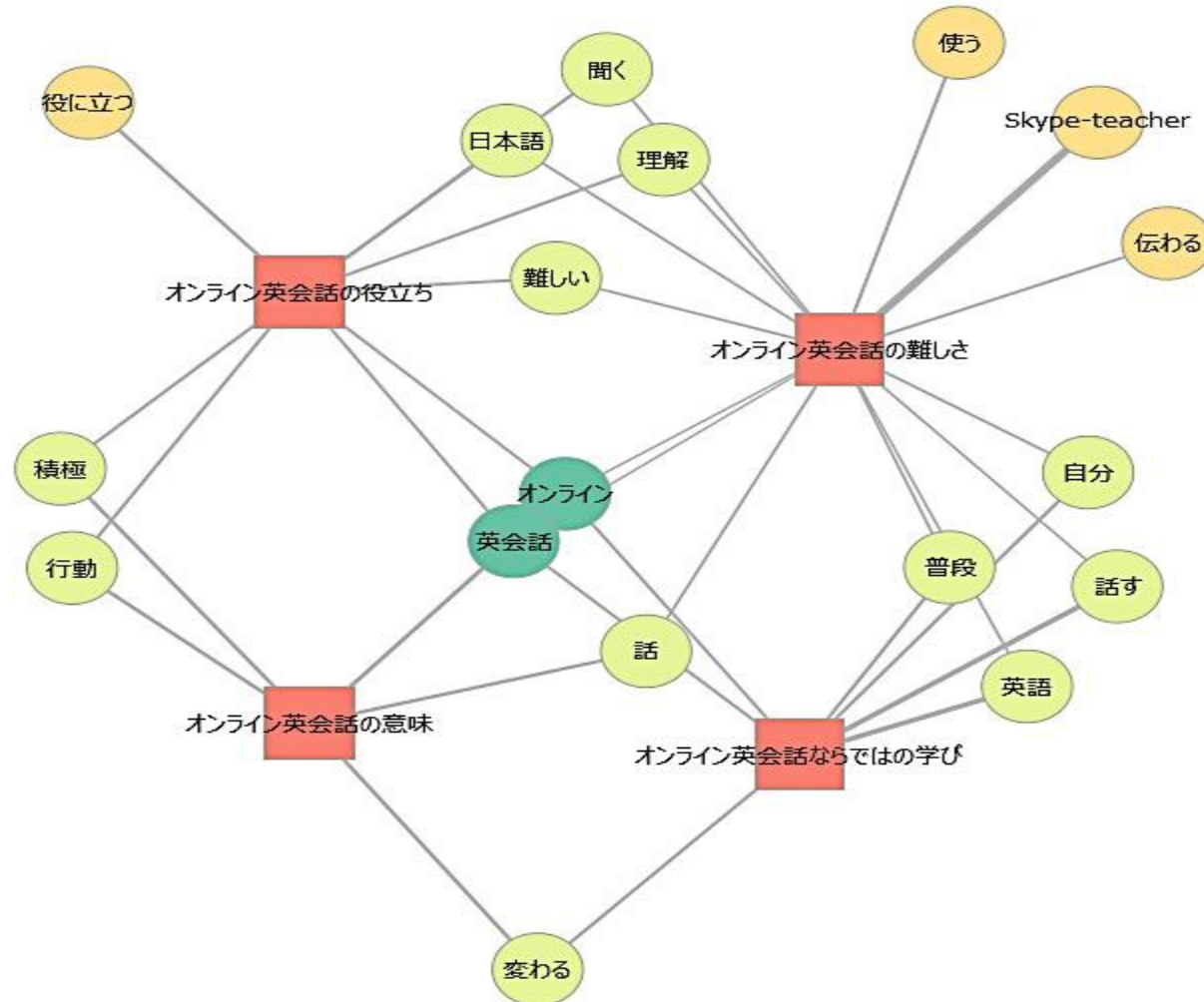
### \* ならではの学び

- オーセンティックな対人による英語交流 + 異文化に対する気付き



# 分析結果

## ■自由記述アンケートの分析結果：中立的評価



# 分析結果

## ■自由記述アンケートの分析結果：中立的評価

### \* 難しさ

-相手の英語が自分が普段話している or 聞いているものと異なる

(原文：「普段とても聞きやすい英語を生で聞いているせいか、実際にSkype-teacherと話をしてみても英語の発音が聞き取りづらいことが多かった。だからこそもっとたくさんの人と話さなければならないと思いました。」)

### \* 活動の意味

-会話時間の確保に対する消極的な態度

### \* 英語学習としての役立ち

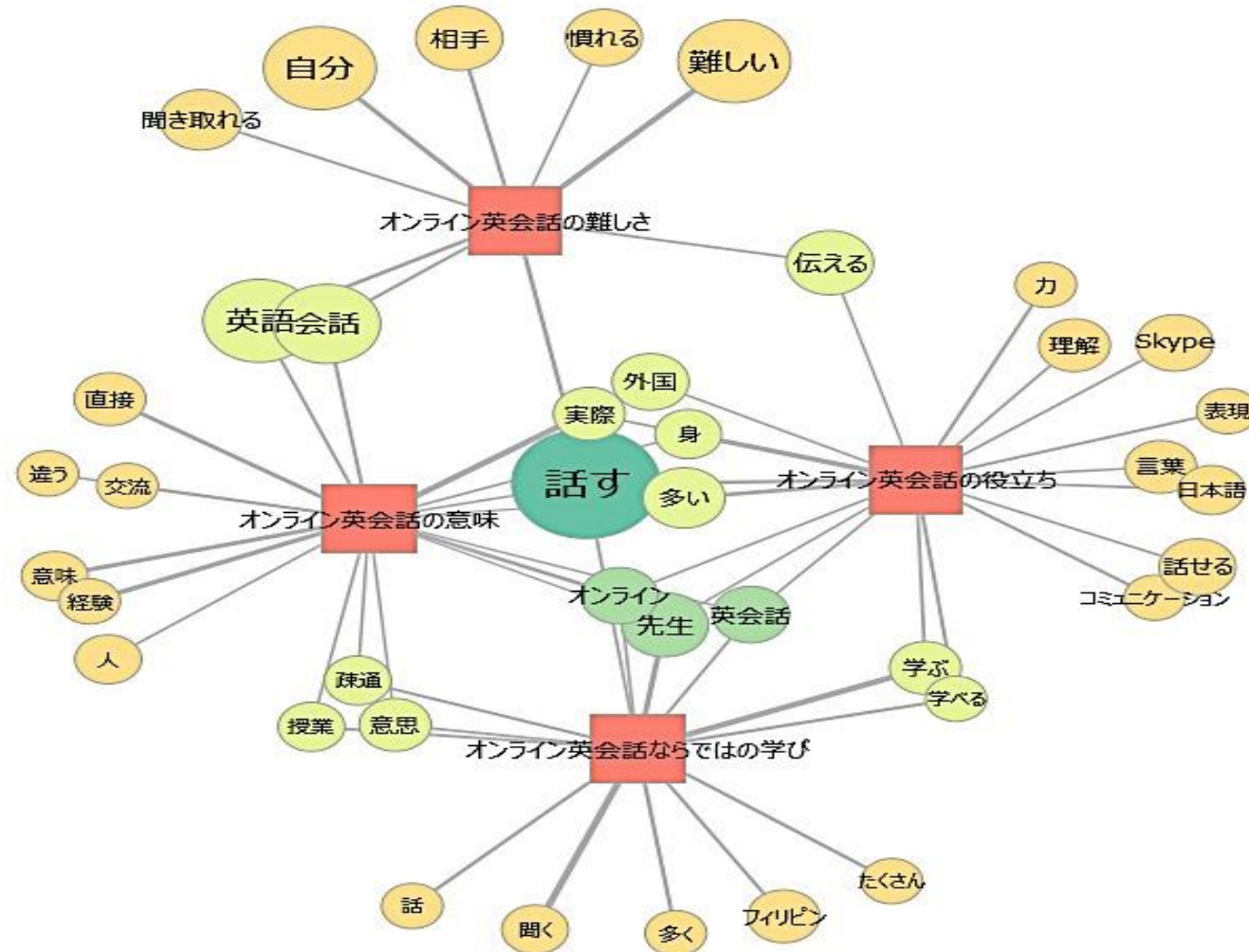
-日本語も交えて欲しい

### \* ならでの学び

-「気付き」まで至る余裕がないくらい精一杯

# 分析結果

## ■自由記述アンケートの分析結果：否定的評価



# 分析結果

## ■自由記述アンケートの分析結果：否定的評価

### \* 難しさ

- リスニングの難しさに対する気付き

### \* 活動の意味

- 意志の疎通が困難（英語力の問題）

### \* 英語学習としての役立ち

- 理解できない部分が多い（英語力の問題）→ でも・・・！！

（原文：「日本語がまったく話せない外国の方と話すことによって言葉以外で表現もしながら伝えるというコミュニケーション方法がとても身についた」／「自ら話す力を身につけるのによいと思った」）

### \* ならでの学び

- 意志の疎通が困難（英語力の問題）
- 文化的な「気付き」が英語の学びにはリンクしない

# 考察

## ■多層言語環境を見据えた取組みとして (HKP48のコンセプトからみた特徴的なキーワード)

### -オーセンティシティ (ESLを想定した環境づくり)

- ・ 真正なコミュニケーションの機会
- ・ 真正な言語インプット・アウトプットを得る機会
- ・ EFL環境の文脈をICTを通じて越える

# 考察

## ■多層言語環境を見据えた取組みとして (HKP48のコンセプトからみた特徴的なキーワード)

### -学習者が得た気付き

- ・ (ポジティブな) 英語力不足の自己認識
- ・ コミュニケーション・ギャップの存在
- ・ 異文化
- ・ 不慣れな英米語以外の英語バリエーション  
→ 試行錯誤を通じて得られる成功体験と自信 ex) Kawashima (2013)

# まとめ

## ■多層言語環境に生きる英語話者とのコミュニケーション

- ICTとアウトソースを活用した多層言語環境の設定
- 学習者にとってはポジティブな実践
- オーセンティシティの問題にアプローチできる
- 英米語以外の英語バリエーションに触れる

→今後の課題：

ex) 英米語以外の英語バリエーションに対するpositive-attitude  
my Englishの概念（自分の英語に自信を持つ）

# Speaking Classes at HBU

